

ドライバ―の花粉症対策

# 安易な服用は事故の元

## 点呼時に繰り返し呼び掛けを

いよいよ花粉シーズンに突入した。花粉症患者にとって毎年恒例の憂鬱なイベントだが、今年はさらに厳しい状況。昨年7、8月の気温が全国的に高く、日照時間も長かったため、スギ・ヒノキの花粉飛散量は全国的にかなり多くなると予想されている。また、花粉が少ない翌年は多くなる傾向にあるといい、昨春は全国的に少なかったことから、昨年比で2〜10倍もの飛散が見込まれている。

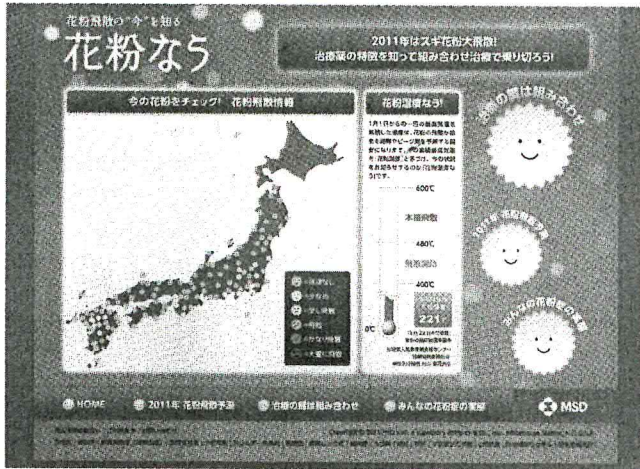
**MSD**  
**花粉症患者に実態調査**

大手医薬品メーカーのMSD(東京都千代田区)が花粉症患者1030人を対象に実施した実態調査の結果によると、花粉症で困るのは、「集中力が落ちる」83.1%、「仕事、勉強、作業能力が落ちる」67.2%など、業務への支障が著しいことが判明。さらに「イライラする」落ち着きがなくなる」46.5%、「憂鬱になる」42.2%といった、精神面への影響も約半数が挙げている。

運転で集中力が必要なたら、トラックドライバ―にとっても深刻な問題だ。「通院するなり薬を飲むなり、対策を講じれば済むだろう」と考えがちだが、調査では69%の患者が「治療をしても、症状を抑えきれない」と感じていることが分かっている。

その原因について、福井大学医学部の藤枝重治教授は、「症状や重症度に合った治療が行われていないことにあるかもしれない」と

### MSDが提供する「花粉なう」



指摘。「症状によって花粉症治療薬を組み合

わせる併用療法が効果的だが、今年のように大量飛散が予測される場合、例年1剤では満足いく効果が得られていなければ、最初から組み合わせによる治療を行うことが大切。医師に早めに相談し、適切な治療を受けることをお勧めする」としている。

**医療機関で適切な薬を**

抗ヒスタミン薬にも

能力低下を起すことなく、同症状の認知度向上を目指す任意団体「インペアー・パフォーマンスゼロプロジェクト」では、「自分の判断で市販薬を服用するのではなく、医療機関で医師や薬剤師に適切な薬を処方してもらう」ことを呼びかけている。

**花粉症対策ポスター**を作成したOCHISの作本貞子理事は、「経営者や運行管理者は、ドライバ―個人の問題とせず、会社を挙げて対策を講じてほしい」と語る。また、薬を服用しているドライバ―には、「はっきりと「トラックを運転する業務」と医師や薬剤師に伝えるように会社が指導すべき。安易な服用は事故の元であることを、点呼などで繰り返し呼び掛ける必要がある」としている。

MSDでは花粉の飛散情報を提供するサイト「花粉なう」を開設している。自社や配達先エリアの情報を事前に収集することも安全管理の一つかもしれない。URLは、<http://www.kafun-now.com>

(大西友洋)